

平成 28 年度 第 3 回 研究会, 研究委員会の近況と活動日程

上坂 貴志 栗島 聡

Activity Report: Committee of Study Groups

Takashi Uesaka Satoshi Kurishima

研究委員会では現在 7 の研究会活動とトワイライトサロンや研究委員会フォーラム等のイベントを運営しています。平成 28 年 6 月 1 日現在の各研究会活動と各種イベントの予定などを掲載しますので、ご興味のある研究会やイベントには是非積極的な参画をお願いいたします。

1. 研究会活動

(1) プロジェクト計画における QFD 応用研究会 (主査：横山 真一郎 東京都市大学)

QFD (Quality Function Deployment : 品質機能展開) の考え方を応用した要求整理方法を中心に、プロジェクト計画立案の手法、方法論を検討しています。

(2) リスク・マネジメント研究会

(主査：武井 勲 武井勲リスク・マネジメント研究所)

プロジェクトの事例を収集し、そこから効果的なリスク・マネジメントの研修方法について検討をしています。また、新規性のあるリスク・マネジメント研修の内容について検討を開始しました。

(3) ソーシャル・プロジェクトマネジメント研究会 (主査：河合 輝欣 ユー・エス・イー)

ソーシャル PM の体系化を目指して、社会の基盤情報システムとしての官公庁プロジェクト等に焦点を当てて研究会を行っています。

<直近の活動実績>

現在、当研究会では、社会インフラプロジェクトの事例研究として、総務省の「ICT 街づくり」や東日本大震災の復旧・復興の街づくりを研究テーマとし、ICT プロジェクトマネジメントの視点から、知見・知識の集積を行い、知識や理論の体系化を試みています。

・ 5 月 20 日 : 研究会開催

[場所：豊洲センタービル 21 階 D 会議室]

作成中の「「ICT スマートタウン」導入・展開のためのガイドライン」について、レビューおよびディスカッションを実施しました。

[議事内容]

① ICT スマートタウンプロジェクトについて

導入・展開までの流れについて、導入展開や評価

の方法について、もう少し記述内容を深掘した方が良いのではないかと。

② PMBOK との比較において

コストマネジメントの中で、事業性評価など PMBOK のスコープ外であるものについて、ICT スマートタウンのプロジェクトで特徴付けられるものの記述をしてはどうか。

【問い合わせ先】 yamamotot@nttdatacs.co.jp (山本)

(4) PM 人材育成研究会

(主査：池田 修一 ポジティブ・ラーニング)

前回では、企業におけるプロジェクトマネジメントに関して、経営課題における業務側と情報システム側について議論をしてきました。今回は業務側の PM としての身に着けるべき項目についての検討を行いました。

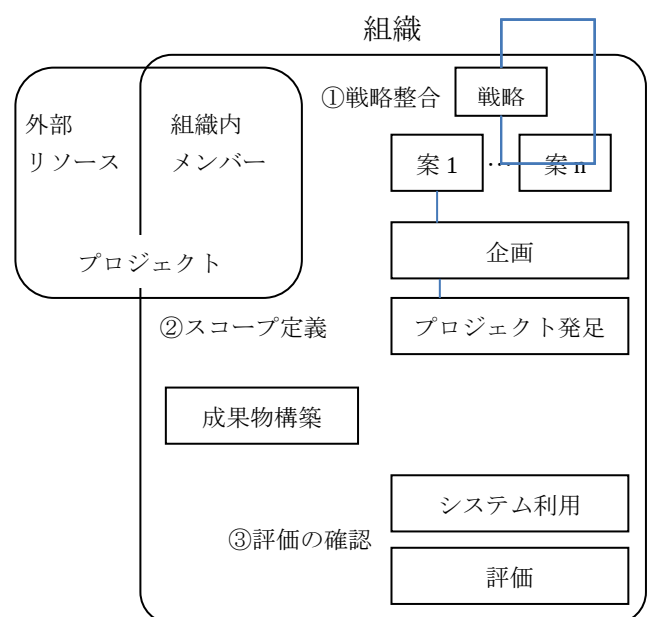


図1 企業におけるプロジェクトマネジメント

通常のPMの仕事ですと、組織の戦略を確認し、②スコープの定義を行うことから入ります(図1)。そして、以下のような活動を行います。

- 1) 目的から具体的な仕事に分解 (WBS)
- 2) 組織内メンバー, 外部リソースへ仕事をアサインする
- 3) 進捗の管理
- 4) リスクの管理
- 5) 成果物の組織側への引き渡し

しかし, 業務側の PM となると, 本当にこのプロジェクトを行うことが組織にとって正解なのか, 戦略と合っているのかをさらに意識します. また, プロジェクトの実施した結果において, きちんとした成果が出ているかを確認する必要があります. つまり, 業務側の PM は①戦略整合, ③評価の確認においても視点を広げる必要があります. このためには, 経営の考え方を理解することや投資効果の判断についてのスキルが重要となります. このスキルを身に付けるには, ただ単に学習するのではなく, 組織内で様々なプロジェクトを経験して, 組織課題について多くのステークホルダーと関わっていくことだと思います.

次回からはステークホルダーについて研究を行っていきます.

今後の活動:

6, 7 月度 プロジェクトに影響を及ぼすステークホルダー

【問い合わせ先】 pmcom2016@freeml.com

(5) メンタルヘルス研究会

(主査: 前田 英行 日立公共システム)

メンタルヘルス研究に関するコミュニケーションの場として活動しています. プロジェクト関係者のメンタルヘルス問題を予防し, プロジェクトの成功に貢献することがメインテーマです. 毎月原則第三水曜日に勉強会・情報交換会を実施しています. お気軽に体験参加してください.

(6) プロジェクトのデータ解析と見積り研究会

(主査: 梶山 昌之 DSR)

プロジェクトの規模, 工数・コスト・工期・品質・リスクなどの測定量を正しく分析するためデータ解析手法を学び, 見積りおよびプロジェクト計画への活用法を研究します.

現在の学習・研究テーマとしては以下の 3 つになります.

- ① 要求を仕様化する技術
- ② R 言語の学習と活用
- ③ アナリティクス手法の学習と活用

要求を仕様化する記述については USDM

(Universal Specification Describing Manner) の考案者である清水吉男氏の著書で学習を行っています. USDM で記述された仕様書の規模を計測するために, USDM ポイントを考案し, 2016 度春季研究発表大会で発表しました. この論文では, 具体的な計測の例として「話題沸騰ポット」の仕様書を計測しファンクションポイント (FP) との相関を研究しました (図 2).

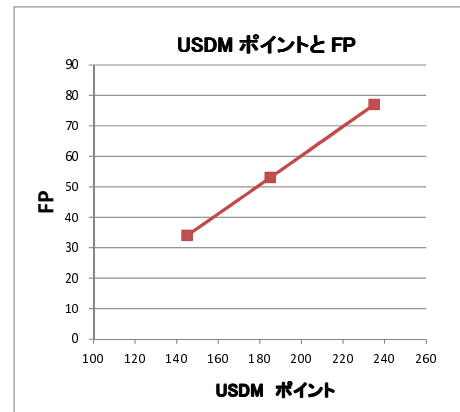


図 2 USDM ポイントと FP

その結果, USDM ポイントと FP には, 強い相関があることがわかりました. この研究に関してはさらに事例を増やして研究し, 次の機会で投稿の予定です.

「R 言語の学習と活用」および「アナリティクスの手法の学習と活用」では, 統計の基礎および各種のデータマイニング手法を学習する予定です.

要求の仕様化技術を学びたい方, 基本的な統計を初歩から学びたい方, または, ビッグデータとそのデータ処理技術に興味がある方には参加をお勧めします.

<今後の予定>

会合は 1 回/月を目安に開催しています.

当研究会では現時点までの活動で, Capers Jones 氏の見積のすべて, Excel 統計, コスト評価知識体系 (CEBoK), 要求の仕様化技術, R 言語による分析事例, データマイニング手法などのコンテンツを蓄積しており, 研究会メンバー参加者はこれらのコンテンツを社内の研修や論文作成などに活用できます.

また, 毎回独立したテーマで参加者のスキルに合わせた運営を行っていますので途中からの参加も歓迎です.

(7) フロネシス PM (知恵ある実践) 研究会

(主査: 中村 太一 国立情報学研究所)

現在、暫定的に隔月の例会開催になっており、4月は休会で、5月19日に第35回の例会が開催されました。今回は日本で20年以上、様々な日本や外資系の企業でITのプロジェクト・マネジャーを務めているインドの女性、Dr Pooja Sardeshmukh氏をお招きして日本の企業のグローバル化の挑戦について興味深いお話を伺いました。日本の企業はグローバルにビジネスを展開する際に日本でのやり方を踏襲する傾向があり、時にはそれが課題となること、グローバル化にはビジョンを形にするリーダーシップが必要であること、などを事例をあげて講演していただきました。グローバル・プロジェクトを牽引するプロジェクト・マネジャーにとって複雑に絡み合うステークホルダーマネ

ジメントが重要であるという彼女の経験からくる知見も説得力がありました。また日本のIT業界における女性活用の遅れについてもグローバル化を阻害する一つの要素としてあげられました。

次回の例会は7月21日を予定しております。

2. その他

活動中の研究会への参加や、新規研究会活動に関する問い合わせは下記までご連絡をお願いします。

【問い合わせ先】 pmKenkyu@jp.ibm.com

研究委員会委員長 上坂 貴志

研究委員会委員 川口 智／笠崎 裕子